東京箱根間往復大学駅伝競走

第94回 箱根駅伝予選会

3位通過。本戦出場へ

第94回東京箱根間往復大学駅伝競走の予選会が10月14日（土）に東京立川市、陸上自衛隊立川駐屯地から国営昭和記念公園までの20キロのコースで行われ、中央大学は総合3位（10時間6分3秒）となり、上位10校に与えられる本戦出場権を獲得。2年ぶりに箱根路への復活を果たしました。昨年の予選会では10位日本大学と44秒差の11位。87回続いた本戦への連続出場が途絶え、涙をのみました。それから1年、藤原正和監督のもと、チームを再建。監督は「この1年、選手たちが一番苦しんできた。特に4年生が、人数の少ない中引っ張ってくれたことで、今日の結果が得られたと思います」と会心のレースを振り返り、選手を労いました。

前日から当日早朝にかけて降り続いた雨は、スタート時に弱まり、涼しさに加えて無風。絶好のコンディションに恵まれる中、中大のランナーは設定タイムに合わせて3つのグループに分かれて集団走を行いました。

「予選会前最後の合宿でミーティングを行い、各自の走り方まで考慮して集団走の陣形を決めました」と語るのは、舟津彰馬主将（経済2）。細部までのこだわりが功を奏し、各選手がグループ内での役割を全うしました。上位10名の通過順位が、5キロ地点で3位、10キロ地点で4位と安定してレースを進め、後半のペースダウンも最小限に食い止めました。中山顕選手（法3）、舟津主将、堀尾謙介選手（経済3）の上位3名も、最後まで日本人トップ争いを展開し、他校の有力選手と僅差でゴールになだれこみました。堀尾選手は「自分たち3人がゴールしたあとも、後続の選手がどんどんゴールしてきていたので、通過したという確信が持てました」と笑みを見せました。

箱根駅伝まで2カ月半、これからチームは最後の追い込みに入っていきます。「11月上旬にはもう一度しっかり練習をしてから、箱根に向けてつくっていきたいなと思っています」藤原監督はそう語ると「今年のお正月にCのマークをお見せできませんでした。2年分の思いもありますし、ゼロからスタートして、それを1にできる喜びを胸に、良い結果をまたご報告できるようにやっていきたいと思っています」と続けました。

第94回箱根駅伝は、2018年1月2日・3日に開催されます。2年ぶりに箱根路に帰ってくる白地にCのマーク、真紅の襷。進化の夏を越え、真価を発揮した予選会。本戦では、シード権獲得に照準を定め、新生中大はさらなるレベルアップを図っていきます。

たくさんのご声援ありがとうございました。

写真：吉田直人

中山顕選手

写真：吉田直人

舟津彰馬選手

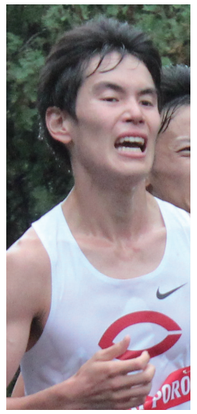
写真：吉田直人

堀尾謙介選手

写真：吉田直人

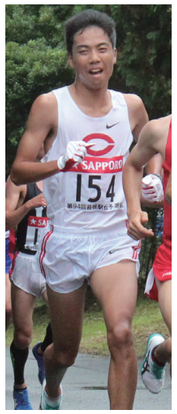
畝拓夢選手

苗村隆広選手

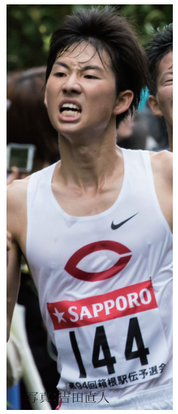


竹内大地選手

池田勘汰選手　岩佐快斗選手

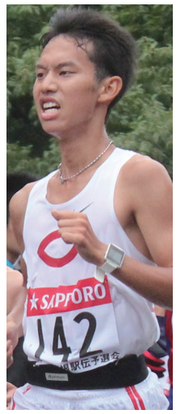


川崎新太郎選手

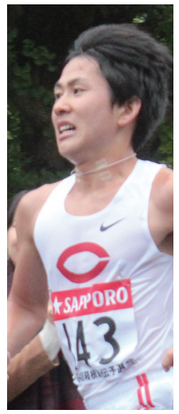


写真：吉田直人

神崎裕選手



蛭田雄大選手



江連崇裕選手

藤原正和駅伝監督コメント

3位通過ということで、もう少し苦しむかなと正直思っていたのですが、想像以上に走ってくれました。苦しいことばかりの1年でしたが、こうして一つ結果が出せたことで、決して無駄ではなかったとようやく言うことができます。この夏は泥臭い練習や厳しい距離走を行ってきました。7月は800km、8月は900kmと月間走行距離を定めて、故障者なくこなせたことが一つの成果です。加えて、ただやるだけではなく各練習の意図や意味を考えてやってこれました。選手同士の競り合いも今夏からは出てきて、それが成長の契機になっていることは間違いありません。一つ一つの練習に対する執着心が段々出てきたように思います。チームの雰囲気は一気に変わるものではなく、小さな変化が増えてきて全体で一つのベクトルになっていきます。それが見られたのが今年の7月、8月でした。予選会はもうこれで終わりにしたいと全員が思っておりますので、本戦の方も応援を宜しくお願い致します。箱根駅伝ではシード権をしっかり得られるよう、往路から積極的にレースを進めたいと思っております。

舟津彰馬＜主将＞コメント

いくしかないと全員が思ったからこその総合3位だと思います。自分自身はエゴをパワーにして走る選手だと思っているのですが、今回はチームのために、前半は抑えてラストにしっかり上げることができました。日本人トップになりたいという思いを我慢したからこそのレースだと思いますが、もっと前にいけたという気持ちもあります。それは箱根でぶつけたいと思っています。これまであまり人に言ってはいませんでしたが、今のキャプテンという立場は楽しいですし、みんながついてきてくれ、結果を出せた時の達成感は個人の結果よりも大きいものです。この1年、一人ひとりがチームの雰囲気を作ってこれたことが大きいと思っています。今回の結果は自分としてもまた一つ成長するステップになったので、もう一段階駆け上がって、シード権を取り戻したいと思っています。個人的には集団での競り合いが好きなので、1区を走りたいと思っています。中大は伝統校と言われていますが、自分たちにとっては新しいチームだと思っているので、さらに新しい歴史を紡ぐことができるようにやっていきたいと思います。

中山顕＜個人成績中大トップ＞コメント

後半までは足をためて、公園内が勝負だと思っていたので、日本人先頭集団で最後まで勝負することができたので良かったです。反省点は日本人2位ということで、そこは気持ちの弱さであったり、実力不足を実感しました。箱根駅伝では、陸上を始めたころからの憧れだった花の2区を走りたいと思っています。本戦まであと2カ月位しかありませんが、またもう一段磨いて他校のエースと勝負できるような選手になっていきたいと思います。同学年の堀尾も同じように往路の前半区間を走ることになると思いますが、長い距離になれば負けられないという思いが自分の中にあるので、2区を勝ち取りたいという気持ちでいます。良い意味で競争しながら高めていけているので、良いライバル関係だと思っています。藤原監督も自分のことを信頼してくれていて、思い通りにやらせて頂いています。最近はレースでも外していませんし、本番で自分のネジを外せるというか、追い込めるのが自分の長所だと思っているので、これからも本番に強い選手、安定感のある選手でありたいと思っています

堀尾謙介＜学連選抜として箱根路経験者＞コメント

日本人トップ集団の後ろで足をためて、後半に上げるというレース展開を中山、舟津と話していて、それがはまってこういった結果になったと思っています。2人に負けたのもそうですが、日本人トップも狙っていたので、悔しい部分もありますが、チームが3番で通過したのはそれ以上の嬉しい気持ちでいっぱいです。今年も落ちてしまうと、また苦しい1年が始まってしまうので、何が何でもという気持ちが強かったのと、やっぱりチームとして箱根を走りたいという気持ちが本当に強かったので頑張れたように思います。本戦の前には、まず11月の1万メートル記録会で藤原監督の持つ中大記録を更新して、その勢いに乗って箱根駅伝に臨みたい。まだ何区を走るかはわかりませんが、往路の前半区間を走ることになるとは思います。シードを獲得するには自分が区間上位の走りをしなくてはいけないと思っていますので、もう一段階練習を積んでいきたいです。